

Newsletter

No. 4
Mar 19, 2018



国際シンポジウム

「Local Communities and Nature Conservation: 地域に根差した自然保護」

Project Practice in Natural Heritage (タスマニア実習)

海外フィールド活動等支援制度

第2回「アジア太平洋地域の遺産保護における
自然と文化の連携に関する人材育成ワークショップ」
世界遺産シンポジウム「自然と文化をつなぐ 神聖な景観」

国内インターンシップ体験談

自然保護寄附講座2018年度開講科目一覧

自然保護寄附講座修了生の声

Local Communities and Nature Conservation

2017年11月23日(木)、筑波大学東京キャンパスにて、自然保護寄附講座の履修学生が中心となって企画・運営した国際シンポジウム「Local Communities and Nature Conservation: 地域に根差した自然保護」を開催しました。プログラムは国内外より招いた6名の専門家・研究者にそれぞれの地域での事例について講演いただいたもので、雨にも関わらず120名もの方たちが参加し、テーマへの関心の高さが伺えました。

大学院の実習で国際シンポジウムの企画・運営が経験できるのは、自然保護寄附講座ならではの、履修生は自然と文化にまたがる学際的な知識をもとに、地域に関わり自然を守る活動を行う専門家・研究者と共に議論の場を創造しました。



A 「オーストラリアにおける民間保護地域: 成果と展望」について講演するマイケル・ロックウッド博士 (タスマニア大学)

B 柴崎茂光博士(国立歴史民俗博物館)による講演「保護地域制度は地域社会にとって創造的破壊なのか?それとも破壊的創造なのか?」



C 「第三極域(TPE)における地域コミュニティとのパートナーシップを通じた持続可能な社会の構築」を講演し、質問に回答するゴンブ・タシ博士 (NPO Plateau Perspectives・チベット大学)



D 綾ユネスコエコパークでの照葉樹林保護の取り組みについて紹介する河野円樹博士(右)

E ラルフ・バックリー博士(グリフィス大学)による講演「地域と自然とを結ぶ架け橋としてのエコツーリズム」



F カンボジアの事例を紹介する藤稿亜矢子博士(東洋大学)

ポスター賞受賞者

第1位	牧野 悠	生命環境科学研究科 生物資源科学専攻 M2	「写真集への掲載写真にみる日光国立公園の風景認識の特徴と変化」
第2位	田村 知也	生命環境科学研究科 地球進化科学専攻 D2	「地衣類-溶岩界面のナノスケール解析による初成土壌生成プロセスの解明」
第3位	李 雅諾	人間総合科学研究科 世界遺産専攻 M2	「地域遺産としての湧水湿地の保全に関する一考察 -中津川市岩屋堂における湿地と人々との関係に着目して-」
第4位	飯泉 結季	生命環境科学研究科 生物資源科学専攻 M2	「中国内蒙古自治区における退化草原の修復へ向けたリン酸窒素混合施肥の活用に関する研究」

ポスター賞 第1位

「写真集への掲載写真にみる日光国立公園の風景認識の特徴と変化」

生命環境科学研究科 生物資源科学専攻 M2
牧野 悠

風景認識、すなわち風景としてどんな要素が着目されてきたかについて発表しました。発表後は様々なご意見を頂きましたが、特に「おすすめ風景を表示するアプリを作ってみては」「写真集だけでなく、SNSやブログを用いて最近の傾向をつかんでみては」の2つが印象深かったです。自由な意見交換ができた、非常に楽しいひとときでした。





国際シンポジウム「地域に根差した自然保護」で全国から詰めかけた120名の参加者へ御礼や感想を述べる履修生

リサーチ アシスタント

地域という単位で考えていく必要性

生命環境科学研究科
地球進化科学専攻 D2
田村 知也

この度、初めて国際シンポジウムの運営に携わらせていただき、非常にやりがいのある経験となりました。また、事前勉強会、さらにシンポジウムでの各先生方によるご講演を通して、一言に自然といっても地域によって固有であり、自然保護を行う上では、程度の差こそあれ地域という単位で考えていく必要性を強く感じました。



リサーチ アシスタント

学生の立場では得難い貴重な体験

生命環境科学研究科
国際地縁技術開発科学専攻 D1
神宮 翔真

本シンポジウムは学生主体のものであるということで、RAを務めた私達二人はテーマの設定から講演者の決定、司会進行に至るまで、運営の主要な一面を担わせて頂きました。どれも学生の立場では得難い、貴重な体験でした。このような機会を頂いたこと、また共に運営を担ったチームのみなさんにも感謝申し上げます。



担当教員

学生自らが国際シンポジウムの企画・運営に関わること

「自然保護特別実習2」 佐伯 いく代

国際シンポジウム「地域に根差した自然保護」は、自然保護寄附講座の履修生7名、リサーチアシスタント(RA)2名の計9名の学生によって企画されました。学生主催のシンポジウムということで、当初、どのようなスタイルにするか迷いましたが、最終的には実習の一環として行うことにしました。学生たちは半年以上も前から準備をはじめ、ミーティングを重ねながら、タイトル、講演者、内容などを詰めていきました。

私は担当教員として主に議論のサポートや外部との連絡調整などをしていましたが、〇才若返って(!?)ほとんど学生実行委員の一人といった気持ちでした。ミーティングは延べ10回以上、講義の重複のない夜に行われることが多かったです。夏には筑波山や牛久自

然観察の森に、事前勉強をかねたエクスカージョンに行きました。これはRA2名が企画してくれたもので、とても楽しい会となりました。秋には外部講師の方をお呼びしてのセミナーも行いました。開催直前は、資料作成、ポスター準備、講演者の方との調整に追われ、ほとんど力業で乗り切った感があります。当日は多くの方にご参加いただき、またすばらしいご講演を聞くことができ、大変貴重な経験となりました。ご協力をいただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。



シンポジウム当日のスタッフの動きを慎重に検討



エクスカージョンでの記念写真

Project Practice in Natural Heritage (タスマニア実習)

豊かな生物多様性を保護しつつ持続的に利用する

生命環境科学研究科 国際地縁技術開発科学専攻 D1
神宮 翔真



オーストラリア・タスマニアといえば、世界有数の生物多様性を有する地域ということで有名です。Project Practice in Natural Heritage は、そんなタスマニアの自然の中で学ぶ実習です。しかし、ただその自然を生態学的なアプローチから学ぶだけのものではありません。この実習の主眼は、**豊かな生物多様性を保護しつつ、持続的に利用する手法を、社会学的なアプローチに裏付けられた実践例から学べる**ということにあります。

タスマニアは、その面積の約4割を保護地域が占めます。ここでは、厳密な意味での「保護」だけではなく、レクリエーションやエコツーリズムといった積極的な利用も多くなされます。持続可能な利用のためには、来訪者や施設を適切に管理をする必要があります。私たちは、University of Tasmania の研究者をはじめとする、社会学分野の多くの専門家の方々のガイドにより、その実態を学びました。

タスマニアは、その豊かな生物多様性に保証された多様な文化的サービス(具体的には自然地域のレクリエーション、毎日出てきた地元野菜、果物、ワイン、ビールなど)を享受できるところでした。本実習での経験を、私個人の研究や自然保護の現場で活かせるものと思いたいと思います。

Project Practice in Natural Heritage (タスマニア実習)

現場の実態を踏まえて保護管理を実施することの重要性

人間総合科学研究科 世界遺産専攻 M2
船木 大資

タスマニア実習ではいくつかの保護地域を訪問し、また専門家の方々が同行して下さいます。そこでは植生から保護管理の方法まで、包括的に学習することができます。私は世界自然遺産に登録されている知床を研究対象地としていますが、今回実習で訪れたタスマニア州においても広大な面積が複合遺産に登録されており、また知床と同様に原生的な自然環境が広く残されていることを特徴の一つとしています。しかしそれぞれの自然保護地域の管理の主眼がどこに置かれているかは自然的・歴史的・社会的条件によって異なっており、そのため選択される保護手法は異なります。**この実習への参加を通して現場の実態を踏まえて保護管理を実施することの重要性を改めて感じましたし、また知床における保護管理との比較を行うことができ、より研究対象地への理解を深めることができました。**

また実習のプログラムも充実していましたが、**多くの友人ができたこともかけがえのない収穫**でした。実習終了後も他専攻の学生との連絡を継続しており、勉強会を通じて議論を行うなど、お互いの研究を高めあうことができている。実習への参加は、**今後も研究を継続する自分にとって多くの恩恵をもたらしてくれた**と思います。



海外フィールド活動等 支援制度

草原環境保全のための現地調査 (中国内蒙古)

生命環境科学研究科 生物資源科学専攻 M2
飯泉 結季



中国内蒙古草原は、中国東北部に位置し、伝統的に牧畜が営まれてきた地域です。しかし現在、草原退化が深刻な問題となっています。私は、この草原の修復に関する研究を行っており、2017年度前期海外フィールド活動等支援制度を活用して7月10日から8月22日まで中国に滞在しました。目的は、修士論文の中心的な内容にあたる散水/施肥実験や植生調査、植物および土壌のサンプリング、土壌の分析実験を行うことでした。天候不順による調査内容の変更や、熱中症など様々なトラブルもありましたが、必要なデータを携えて帰国することができました。研究員や牧民*との交流を通して、羊肉や白酒**を味わったり、結婚式に参加するなど、**現地の文化に触れられたのも印象的**でした。

現地調査の目的達成には、渡航する前に研究計画や調査の目的をきちんと整理し、客観的な評価を受けられたことが重要だったと考えています。海外フィールド活動等支援制度の選考にあたっては、就職活動との兼ね合いもあり、必要書類や英語のプレゼンテーションを準備するのは正直かなりハードでした。しかし、**調査の前にきちんと準備していたことで、調査中に計画変更などがあっても目的からずれずに対処することができました。**



さらに、この調査で得たデータを基にして後日行ったポスター発表では、自分の研究活動で初めて賞を頂くことができました。こうして計画から実行、総括まで一貫して自分の研究活動を評価していただけことは、非常に自信になりました。

* 草原に居住し牧畜を営んで生活している人々のこと
** 中国で伝統的に飲まれている蒸留酒

海外フィールド活動等 支援制度

危機言語の保護関係者への ヒアリング調査 (オーストラリア)

人間総合科学研究科 世界遺産専攻 M2
太田 早耶



今回私は、修士論文の調査の一環として9月にオーストラリアのタスマニアとキャンベラを訪問しました。私は、消滅の危機に瀕した言語の保護に関する研究を行っており、今回のフィールドワークでは、オーストラリアで先住民の人々がどのように社会に関わっており、また彼らの言語の保護がいかに行われているのかについて、実際に関係する方からお話を聞くことを目的としました。

タスマニアでは、アボリジニの方と実際にお話し、タスマニアのアボリジニの方々の、言語や土地との関係、またその管理に関する考え方について教えていただきました。さらに**タスマニア大学でいくつかの授業を聴講する機会を得る**ことができ、先住民の人々の経済への参加の問題や、統合的な環境マネジメントなどの講義に出席しました。

またキャンベラでは、オーストラリア政府の法定機関である、アボリジニとトレス海峡諸島民研究機構を訪問し、言語の保護に携わっている研究者の方にお話をうかがいました。現在オーストラリアで行われている言語の保護について、また話者共同体の意識について、さら



に現在の課題など**多くのことを聞かせていただくことができ、大変参考になりました。**

今回このフィールドワークを後押しし、支援して下さった寄附者の方、先生方、また現地でお世話になった、タスマニア大学の Michael Lockwood 先生を始めとする皆様に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

担当教員

「神聖な景観」をテーマに日本の経験を学ぶ

「自然保護特別実習1」 吉田 正人・稲葉 信子・インザワ マヤ

2017年9月15日から26日、筑波大学世界遺産専攻・自然保護寄附講座の共催で、第2回アジア・太平洋地域の遺産保護における自然と文化の連携に関する人材育成ワークショップが開催されました。このワークショップは、アジア・太平洋地域の若手・中堅の遺産管理関係者を対象に、ユネスコ世界遺産センター、ICCROM（文化財保存修復研究国際センター）、IUCN（国際自然保護連合）、ICOMOS（国際記念物遺跡会議）の協力を得て実施しており、ユネスコ高等教育局からユネスコチェアプログラムの認定を受けました。



奈良県吉野にある大峯奥駈道を歩く



修了証を手に笑顔を見せるアジア・太平洋地域の若手専門家と自然保護寄附講座履修生

第2回目は、「神聖な景観」をテーマに、富士山や紀伊山地のように自然への畏敬の念から信仰の場となった文化遺産や、神聖な価値を持った自然遺産における自然と文化の関係に配慮した遺産管理、観光管理などを学びました。主にアジア・太平洋地域からの16人の参加者と、自然保護寄附講座「自然保護特別実習1」を受講する5人の筑波大学大学院生が参加して、ICCROM、IUCN、ICOMOSの専門家から神聖な景観の保全・管理に関する基礎を学ぶとともに、高野山、熊野、吉野を含む紀伊山地の霊場と参詣道を巡り、日本の経験を学びました。



筑波大学大学院 世界遺産専攻長
吉田正人



ICCROM プログラムマネージャー ガミニ・ウィジャスリヤ、
IUCN 世界遺産部長 ティム・バッドマン、ICOMOS コンサルタント カロリーナ・カステラノス



ガーナとフランスからの参加者による
プレゼンテーション



ユネスコ 世界遺産センター長
メヒティルド・ロスラー

最後に9月26日にはつくばグローバルサイエンスウィークの一環として、国際シンポジウム「アジア・太平洋地域の遺産保護における自然と文化の連携—神聖な景観」が開催され、ユネスコ世界遺産センターのメヒティルド・ロスラー所長、元ユネスコ生態科学部長のトーマス・シャーフ氏、IUCN 世界遺産部長のティム・バッドマン氏、慶應義塾大学の鈴木正崇名誉教授、マレーシア工科大学のアムラン・ハムザ教授らの講演に引き続き、ワークショップ参加者の発表が行われました。



元ユネスコ 生態科学部長
トーマス・シャーフ



慶應義塾大学 名誉教授 鈴木正崇



マレーシア工科大学 教授 アムラン・ハムザ

2018年度も「災害と回復力」をテーマに自然と文化の関係に関するワークショップを開催する予定です。



国内インターンシップ体験談

短期
インターンシップ

環境省 東北地方環境事務所・国立公園課

生命環境科学研究科 地球科学専攻 M1 岡田 浩平



私は環境省東北地方環境事務所・国立公園課で2週間のインターンシップを行いました。内容は、三陸復興国立公園・磐梯朝日国立公園指定地域の利用推進および自然環境保全のための業務です。

三陸復興国立公園では、みちのく潮風トレイルの整備や管理・点検業務などを体験させて頂きました。施設整備計画の打ち合わせでは、経済発展と自然環境保全のために政府・自治体・民間企業・地元住民など多くの立場の方々と協議を行う必要があり、開発事業を進めることの難しさを学びました。また、磐梯朝日国立公園内の業務では、以東岳の山頂付近に建設した緊急避難小屋の設備点検業務に参加させて頂きました。標高は1700mを超え、十分なライフラインが整備されていない環境下なので、不備があると利用者の命にもかかわるという責任を感じる業務でした。

今回のインターンシップでは、利用者目線で物事を考えて事業を進めることの重要性を強く感じました。現場に出て自分の目で見ることは、事務所での内業とは異なる利用者側の視点から考えることができ、業務の迅速な対応と責任感を感じることにつながると思いました。そして、職員の方々の自然環境保全に対する思いや、豊富な専門知識には驚くばかりでした。

最後に、このようなインターンシップの機会を与えてくださった東北地方環境事務所の皆様、先生方、そして支援を頂いた自然保護寄附講座に心より御礼申し上げます。

短期
インターンシップ

NPO法人 緑と水の連絡会議

人間総合科学研究科 世界遺産専攻 M1 森田 なつみ

私は、NPO法人緑と水の連絡会議にて2週間のインターンシップをさせて頂きました。国際ワークキャンプへ参加し、国内外の若者と共に、石見銀山や三瓶草原の景観保全のための伐採作業やワサビ田の整備作業といった自然保護活動や、様々な地域交流イベントに参加しました。特に印象に残っている活動は、島根県大田市富山町を訪れ、町内散策や地域住民との交流を通して、富山町の魅力や課題について考え議論し、今後への提言を行うというもので、日本の地方集落の現状と活用方法に関する、日本人大学生や外国人の視点を知ることができました。



このインターンでは全ての活動において、様々な“気付き”を得ることができました。自然保護に関することはもちろん、地域活性化活動にも関わることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。地域の人々はただ単に世界遺産だからという理由だけで石見銀山の景観保護に取り組んでいる訳ではなく、地域にとって守るべき価値のあるものだと認識しているからこそ、こうした取り組みが成り立っているのだと強く感じました。最後に、このような機会を与えて下さった緑と水の連絡会議、自然寄附講座の皆様にご心より感謝申し上げます。

短期
インターンシップ

トヨタ白川郷自然学校

人間総合科学研究科 世界遺産専攻 M1 申 善姫

私は中国出身の留学生です。9月1日から11日までの11日間、世界遺産である白川郷の馬狩エリアにあるトヨタ白川郷自然学校でインターンシップを行ってきました。トヨタ白川郷自然学校は、環境教育を行う団体、個人、企業向けに自然体験やエコツーリズムなどの季節に応じた様々なプログラムを提供しています。私は自然学校のスタッフの1人として、仕事を体験させて頂きました。11日間のインターンシップ中、ラフトボート、企業研修、森の中のピザ作り、乳幼児家庭学級などのプログラムに参加し、それぞれが大変興味深く有

意義でした。トヨタ白川郷自然学校がもっと良い社会、良い環境を作るために活動し、お客様に自然体験サービスを提供しながら自然環境を面白く伝え、スタッフも楽しんで仕事をしている様子分かり、感動しました。また今回のインターンシップで初めて日本の企業を経験したのですが、日本の職場の雰囲気や企業の仕組みを学び、実際の業務や信頼関係づくりなどを体験することができました。日本と中国の会社の共通点と相違点も学ぶことができたので、将来、その経験を日本社会での仕事や生活に活かしていきたいと思っています。



教科書「自然保護学入門 ひとと自然をつなぐ」が出版されます！

- 第1章「自然保護の概念」
- 第2章「自然保護の変遷」
- 第3章「地圏の成り立ち」
- 第4章「陸域の生態系」
- 第5章「海洋の生態系」
- 第6章「地球温暖化と海洋の環境変動」
- 第7章「生物多様性」

- 第8章「自然保護に関連する法制度」
- 第9章「保護地域とその管理」
- 第10章「野生生物管理」
- 第11章「エコツーリズム」
- 第12章「景観づくりから始まる自然保護」
- 第13章「遺産保護における自然と文化の連携」
- 第14章「自然保護のためのモニタリング」

筑波大学自然保護寄附講座／編 筑波大学出版会 定価（本体3,000円＋税）



自然保護寄附講座 2018 年度開講科目一覧

Certificate Programme on Nature Conservation subjects for A.Y.2018

E: English *コードシェア科目 *Code share subjects
 *単位・・・講義:1単位 実習:1~5単位 *年次は1-5年次 *集中講義日程および教室はKdBを参照のこと
 *Credit...Lectures: 1 credit Practicals: 1-5 credit *Year...1-5 year
 *For the period of intensive courses, classrooms and other detailed information, please refer to KdB.

科目番号 Coursecode	科目名 Subject Title	モジュール Module	曜時間 Block	担当教員 Lecturer	備考 Remarks
講義 Lectures					
02JZ001	自然保護論 Nature Conservation Study	春B Spring B	木 1,2 Thu 1,2	吉田 正人 Masahito Yoshida	Available in English on request
02JZ002	地球環境論 Earth Science	秋AB Fall AB	金 3 Fri 3	指田 勝男 他 Katsuo Sashida, other	Available in English on request
02JZ003	保護地域管理論 Protected Area Management	秋AB Fall AB	火 3 Tue 3	伊藤 太一 Taichi Ito	Available in English on request
02JZ004	景観・緑地保全論 Landscape Conservation	秋ABC Fall ABC	随時 Tba	伊藤 弘、黒田 乃生 Hiromu Ito, Nobu Kuroda	
02JZ005*	自然遺産論 Natural Heritage Studies	春A Spring A	木 1,2 Thu 2	吉田 正人 Masahito Yoshida	=01EC565
02JZ006	生物多様性論 Biodiversity	秋AB Fall AB	水 2 Wed 2	佐伯 いく代 Ikuyo Saeki	
02JZ007	Wildlife Management (E)	秋AB Fall AB	火 4 Tue 4	佐方 啓介 Keisuke Sakata	
02JZ008	モニタリング調査技術 Monitoring Techniques	秋C Fall C	集中 Intensive	和田 茂樹、武 正憲 Shigeki Wada, Masanori Take	
02JZ009*	植生学 Vegetation Science	秋B Fall B	火 1,2 Tue 1,2	上條 隆志、川田 清和、清野 達之、 Takashi Kamijo, Kiyokawazu Kawada, and Tatsuyuki Seino	=01AD432, 01AH203
02JZ010*	Vegetation Science (E)	秋A Fall A	火 1,2 Tue 1,2	上條 隆志、川田 清和、清野 達之、 Takashi Kamijo, Kiyokawazu Kawada, and Tatsuyuki Seino	=01AD318, 01AH204
02JZ011*	遺伝子多様性 (E) Access and Benefits Sharing of Genetic Biodiversity (E)	秋AB Fall AB	金 1,2 Fri 1,2	渡邊 和男、河瀬 眞琴、小口 太一 Kazu Watanabe, Makoto Kawase, and Taichi Koguchi	=01AB827
02JZ012*	International Conventions for Environment (E)	春B Spring B	集中 Intensive	吉田 正人、稲葉 信子、外部講師 Masahito Yoshida, Nobuko Inaba, and Guest Lecturers	=01EC552 外部講師: 香坂 玲 (東北大学、6月)、堀江 正彦 (IUCN、6月) Guest lecturers: Ryo Kosaka, Tohoku University (Jun.) Masahiko Horie, IUCN (Jun.)
02JZ013*	Role of International Organizations and NGOs (E)	秋A Fall A	集中 Intensive	吉田 正人、稲葉 信子、外部講師 Masahito Yoshida, Nobuko Inaba, and Guest Lecturer	=01EC548, 02ZY131 外部講師: Leticia Leitao (IUCN/ ICCROM、10月) Guest lecturer: Leticia Leitao, IUCN/ ICCROM (Oct.)
02JZ014*	International Cooperation for Environment (E)	春C Spring C	集中 Intensive	吉田 正人、稲葉 信子、外部講師 Masahito Yoshida, Nobuko Inaba, and Guest Lecturer	=01EC549, 02ZY132 外部講師: 鈴木 和信 (JICA、7月) Guest lecturer: Kazunobu Suzuki JICA (Jul.)
02JZ015*	Citizens' Participation for Environment (E)	秋C Fall C	集中 Intensive	吉田 正人、稲葉 信子、外部講師 Masahito Yoshida, Nobuko Inaba, and Guest Lecturer	=01EC550 外部講師: Richard Dumez (フランス自然史博物館、2月) Guest lecturer: Richard Dumez, Musée de l'Homme (Feb.)
02JZ016*	Environment and Sustainability (E)	秋A Fall A	集中 Intensive	吉田 正人、稲葉 信子、外部講師 Masahito Yoshida, Nobuko Inaba, and Guest Lecturer	=01EC551 外部講師: Nigel Crawhall (ユネスコ、10月) Guest lecturer: Nigel Crawhall, UNESCO (Oct.)
02JZ017	自然保護行政論 Nature Conservation Administration	秋C Fall C	集中 Intensive	吉田 正人、渡邊 綱男 Masahito Yoshida, Tsunao Watanabe	
02JZ018	自然保護法制度 Nature Conservation Legislation	秋BC Fall BC	集中 Intensive	吉田 正人、外部講師 Masahito Yoshida, Guest Lecturers	
02JZ019	環境影響評価 Environmental Impact Assessment	秋BC Fall BC	集中 Intensive	吉田 正人、外部講師 Masahito Yoshida, Guest Lecturers	
02JZ020	生態系の保全と復元 Ecosystem Conservation and Restoration	未定 tbc	集中 Intensive	佐伯 いく代、外部講師 Ikuyo Saeki, Guest Lecturers	公開講座 Public Lectures
02JZ021	自然保護教育と環境教育 Nature Conservation Education	未定 tbc	随時 Tba	佐伯 いく代、外部講師 Ikuyo Saeki, Guest Lecturers	
02JZ022	自然保護セミナー Nature Conservation Seminar	春BC秋A Spring BC Fall A	随時 Tba	佐伯 いく代、佐方 啓介、和田 茂樹、武 正憲 Ikuyo Saeki, Keisuke Sakata, Shigeki Wada, and Masanori Take	エクスカージョン他 (6月) Excursion, other (Jun.)
02JZ023*	インタープリテーションとエコツーリズム Interpretation and Ecotourism	秋A Fall A	随時 Tba	武 正憲 Masanori Take	=01EC559 飯能市 Hanno city
02JZ024	ジオパーク論 Geoparks	秋A Fall A	集中 Intensive	久田 健一郎、佐伯 いく代、外部講師 Kenichiro Hisada, Ikuyo Saeki, and Guest Lecturers	公開講座 Public Lectures
02JZ025	サイエンティフィック・ジャーナリズム Scientific Journalism	春ABC Spring ABC	随時 Tba	和田 洋 Hiroshi Wada	
02JZ026	自然保護特別講義 1 (科学と社会のコミュニケーション) Special Lecture in Conservation 1 (Communication Between Science and Society)	夏季休業中 Summer break	集中 Intensive	武 正憲、早岡 英介 Masanori Take, Eisuke Hayaoka	
02JZ027	自然保護特別講義 2 (E) Special Lecture in Conservation 2 (Nature-Culture Linkage Workshop)(E)	夏季休業中 Summer break	集中 Intensive	吉田 正人 Masahito Yoshida	
実習・インターンシップ Practicals / Internship					
02JZ102	海域フィールド実習 Field Practice of Marine Ecosystem	秋C Fall C	集中 Intensive	和田 茂樹、武 正憲 Shigeki Wada, Masanori Take	
02JZ106*	Project Practice in Natural Heritage (E)	春季休業中 Spring break	集中 Intensive	吉田 正人、佐方 啓介、佐伯 いく代 Masahito Yoshida, Keisuke Sakata, and Ikuyo Saeki	=01EC564 タスマニア大学との合同実習 Joint unit with Univ. Tasmania
02JZ107	陸域フィールド実習 1 Field Practice of Terrestrial Ecosystem 1	未定 tbc	集中 Intensive	上條 隆志、佐伯 いく代 Takashi Kamijo, Ikuyo Saeki	筑波山: 6月 Mt. Tsukuba: Jun. 八ヶ岳演習林: 7月 Yatsugatake: Jul.
02JZ108	陸域フィールド実習 2 Field Practice of Terrestrial Ecosystem 2	秋AB Fall AB	集中 Intensive	佐伯 いく代、上條 隆志 Ikuyo Saeki, Takashi Kamijo	筑波周辺の身近な自然と里山: 10-12月 Natural environments in and around Tsukuba: Oct., Nov., Dec.,
02JZ109	保護地域・野生生物管理実習 1 Protected Area and Wildlife Field Practicals 1	夏季休業中 Summer break	集中 Intensive	武 正憲、佐方 啓介、伊藤 太一 Masanori Take, Keisuke Sakata, and Taichi Ito	南アルプスの奥山地域での登山活動 (北岳) ほか: 9月 Minami Alps and surrounding area: Sep.
02JZ110	保護地域・野生生物管理実習 2 Protected Area and Wildlife Field Practicals 2	夏季休業中 Summer break	集中 Intensive	佐方 啓介、武 正憲、伊藤 太一 Keisuke Sakata, Masanori Take, and Taichi Ito	南アルプスほか南アルプスの里山地域での野生生物管理活動: 9月 Minami Alps and surrounding area: Sep.
02JZ111	自然保護特別実習 1 (E) Nature Conservation Special Field Practicals 1 (E)	夏季休業中 Summer break	集中 Intensive	吉田 正人、稲葉 信子 Masahito Yoshida, Nobuko Inaba	Nature-Culture Linkageの実習 Practicals of Nature-Culture Linkage
02JZ112*	自然遺産実習 Natural Heritage Field Practicals	夏季休業中 Summer break	集中 Intensive	吉田 正人、武 正憲 Masahito Yoshida, Masanori Take	=01EC539 小笠原諸島父島: 8月 Chichi-jima, Ogasawara: Aug.
02JZ201	短期インターンシップ Short-term Internship	通年 Year-round	随時 Tba	佐方 啓介、佐伯 いく代 Keisuke Sakata, Ikuyo Saeki	1ヶ月未満 (10日程度) 1-month duty, 10 days
02JZ202	中期インターンシップ Mid-term Internship	通年 Year-round	随時 Tba	佐方 啓介、佐伯 いく代 Keisuke Sakata, Ikuyo Saeki	1ヶ月以上、3ヶ月未満 (20日程度) 1-3 months duty, 20 days
02JZ203	長期インターンシップ Long-term Internship	通年 Year-round	随時 Tba	佐方 啓介、佐伯 いく代 Keisuke Sakata, Ikuyo Saeki	3ヶ月以上、1年以内 (40日程度) 3-12 months duty, 40 days
02JZ204	海外インターンシップ International Internship	通年 Year-round	随時 Tba	吉田 正人、佐方 啓介 Masahito Yoshida, Keisuke Sakata	6ヶ月 (IUCN) 6 months duty, IUCN, Switzerland
02JZ205	海外自然保護特別研究 International Special Research on Nature Conservation	通年 Year-round	随時 Tba	吉田 正人、佐方 啓介 Masahito Yoshida, Keisuke Sakata	タスマニア大学、ディーキン大学など提携大学での研究活動など Field research in Univ. Tasmania or Deakin Univ. etc.



自然保護寄附講座修了生の声

[公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 国内事業部]

井上 葵 Aoi Inoue

「地球に住む一員として考えなくてはいけないこと」



PROFILE

千葉県出身。2016年、自然保護寄附講座修了。同年、人間総合科学研究科世界遺産専攻修了。公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の職員として活動中。

2016年3月に修了し、現在は公益社団法人日本ユネスコ協会連盟で働いています。日本ユネスコ協会連盟とはユネスコ憲章の理念に賛同し、平和の礎を築くことを目指すNGOです。

世界遺産専攻に所属し、文系だった私が自然保護寄附講座を受けることにした理由は**単純に海が大好きで自然を守るために自分ができることを考えたい**と思ったからです。2年間で出席できるだけの授業を取り自然保護に関する幅広い知識を得ました。正直、忙しくてとても大変でしたが、大変貴重な話を聞き、経験もしました。寄附講座の内容は地球に住む一員として考えなくてはいけないことばかりだったと思います。

現在、多くの企業、NGO等がSDGs (Sustainable Development Goals)の達成に向け様々な取り組みを行っており、私の職場もその一つです。SDGsは**持続可能な社会の実現に向けての目標であり、自然保護は大いに関係してきます。**

直接的ではありませんが、**自然保護寄附講座で得たものは今の私の糧**となっています。学生のみなさんも今寄附講座で過ごすこの時間を大切に、有意義なものにしてください。どんな分野に進むことになっても、学んだことは必ずいきます。

[公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン 気候変動・エネルギーグループ]

新井 一永 Kazunaga Arai

「憧れの職場で自然保護の仕事に携わる」



PROFILE

岐阜県出身。2016年、自然保護寄附講座修了。同年、生命環境科学研究科地球科学専攻修了。WWF ジャパンに入職し、2017年4月から企業協働の分野で活動中。

私は世界自然保護基金(WWF)ジャパンで、企業協働の分野で働いています。**憧れの職場で「自然保護」という素晴らしい仕事に携われる事に、喜びと充実感を感じています。**こうして今の私があるのは、自然保護寄附講座との出会いがあったからでした。私は本講座の一期生として履修致しました。環境問題は多くの課題が絡む複雑なものですが、**本講座のシラバスは学際的で、ひとつの課題を様々な角度から検証し、客観的に問題を捉える視野を養う事が出来ます。**フィールド実習では**自然や文化と直接触れ合う中で、座学ではわからない自然の尊さを体感しました。**研修先で見た原風景は、人生においても多くの学びを与えてくれたように思います。本講座の大きな特徴であるインターンシップ制度では、国内外を問わず多くの学生を自然保護の現場に送り出しています。私はWWFでインターンをさせて頂きましたが、その夢が叶ったのは、ひとえに先生方の惜しみないご支援とお力添えがあったからでした。在学生の皆さんは、ぜひ自分がやりたい事を大切に、多くの経験の場に飛び込んでみて下さい。その全てが、学生時代の財産になります。そして本講座の先生方は、皆さんの本気を、本気で応援して下さいます。末筆ながら、本講座の益々のご発展をお祈り申し上げます。

[環境省釧路自然環境事務所 野生生物課]

鶴田 奈津希 Natsuki Tsuruta

「後の世代に多様な選択肢を残したい」



PROFILE

静岡県出身。2016年、自然保護寄附講座修了。同年、生命環境科学研究科生物科学専攻修了。環境省に入省し、2016年4月から釧路自然環境事務所希少種等業務に携わる。

自然保護寄附講座を修了してから、もうすぐ2年。今は環境省に勤めており、釧路にある事務所で希少種や外来生物など野生生物に関する仕事をしています。ある講義の中で、生物多様性はなぜ大事か、なぜ守らないといけないか、一つの答えとして、**後の世代に多様な選択肢を残すため**という言葉が聞きました。それまでは漠然とした「大事」という考えだけでしたが、保全の必要性について強く感じるようになり、当時、環境省への就職を希望しつつもどこか迷っていた私にとって、**決断する大きなきっかけ**となりました。今後**自然環境保全を進めるためには、その重要性について多くの人に分かりやすく、的確に伝えていかなければ**と感じています。寄附講座ではNPOなど現場の最前線で活動する方、環境省職員の方など、**様々な面から自然保護に携わる方の話を聞く機会があり、振り返ると本当に良い経験をした**と改めて感じます。実際に今は多くの方と接しながら仕事を進めることがほとんどで、**幅広く学べたことが役立っています。**寄附講座はどの講義も内容が濃く**圧倒されることもありますが、その分貴重な経験になります**ので、現役生の方はぜひ積極的に講義に参加してみてください。応援しています！

オフショット



国際シンポジウム「地域に根差した自然保護」が無事に終了し、懇親会でほっと一息

Photo : Daisuke Funaki, Fauziatul Fitriyal, Fumihiko Ito, Masahito Yoshida, Masanori Take, Maiko Suda
Cover photo : 小笠原諸島南島扇池, Taiichi Ito

2018年3月19日発行
編集・発行 筑波大学大学院自然保護寄附講座事務局
〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学共同研究棟A202
☎ (029)-853-6344
✉ nature@heritage.tsukuba.ac.jp

Website : <http://www.conservation.tsukuba.ac.jp>
Facebook : <http://fb.com/348288268657992>
Twitter : <https://twitter.com/natureconserva1>
Blog : <http://www.conservation.tsukuba.ac.jp/blog/>

